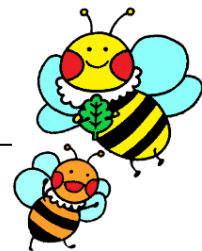




いぶき

【学校教育目標】自律・尊重



人の間で生きる…

「金八先生」ではありませんが、「人の間」と書いて人間です。「人の間で生きる」、言い換えれば「人間関係の中で生きる」ということですね。親子関係、兄妹関係、親戚関係、友達関係、子弟関係、ご近所関係、上司や部下との関係等々…。こうして考えると、私達はたくさんの人間関係の中で生き、それぞれの中で自分を演じ分けているのですね。私も含めて、こうした全ての人間関係が良好で満足のいくものだと言い切れる方は、おそらくいないのではないのでしょうか。「全ての悩みは人間関係の悩みである」と言い切った、心理学者アドラーの言葉にもうなずけます。

とは言うものの、できることなら、円滑で円満な人間関係の中で生きていきたいものです。もちろん、子どもたちにもそうあってほしいと思うのが親心ですね。では、どうすれば、子どもたちは良好な人間関係を築ける（獲得する）ようになるのでしょうか。今日は、この難しいテーマについて、皆さんと考えていきたいと思います。

結論から言えば、様々な人間関係の中で様々な経験を積むことです。具体的には…

1 遊ぶ

子どもたちにはたっぷりと遊ばせてください（ゲーム機やスマホ抜きで）。子どもは遊びを通して協力やコミュニケーションスキルの重要性を学びます。ルールに従い、交渉し、譲り合う態度も、遊びの中から体得することができます。「遊び」以上に社会性とコミュニケーションを学ぶ方法はないと言っても過言ではありません。「遊んでばかりいて！」と子どもをなじるのは、「社会性もコミュニケーションスキルも身につけなくていいよ。」と言っていることに等しいと私は思っています。

遊びには「仲間」「空間」「時間」の「3つの間」が必要です。最近では、1番肝心な「仲間」を見つけることが難しくなっているようです。私の長男が小学生の頃、「みんな習いごとが忙しくて、遊ぶ相手が見つからないよ。」と、よく嘆いていました。

学校で子どもたちが楽しみにしているのが休み時間です。学校にはスマホもオンラインゲームもありません。せいぜいあるのはボール、縄跳び、フラフープ、一輪車、鉄棒くらいのものでしょうか。それなのに、子どもたちは休み時間になると夢中になって外に飛び出し、全力で遊んでいます。そうなのです。子どもたちは本能的に、「群れる遊び」を求めているのです。そこには様々な人間模様があり、駆け引きがあり、譲り合いがあります。時にはトラブルが起き、そこでは解決するための話し合いが生まれます。物が無い分、子どもたちは創意工夫を生かして遊びます。遊びの中で、子どもたちは正に人間関係を学んでいます。休み時間は、子どもたちにとって休息以上の大きな意味があるのですね。

こどもルームに通っている子どもたちを見ていると、理想的な遊びを体験できているなと私はいつも思います。異年齢の仲間がいて、自由な空間があって、毎日たっぷりと時間がある。そこには「3つの間」が揃っています。習い事ももちろん大切ですが、大人の管理下に置かれず、子どもたちだけの遊びの世界（スマホなどはもちろんなしで）を保証してあげられないものかと私はいつも思っています。

2 協働

大人になった時、円滑な人間関係を営むためには、子ども時代に仲間との協働体験を積むことが大切です。「仲間と取り組んだわくわくするような原体験」



ですね。学校の中で言えば、各種の学校行事がそれに当たるでしょうか。例えば「運動会」。仲間と一緒に競技に取り組み、その勝敗に一喜一憂する。仲間の活躍に思いきり声援を送る。一生懸命ダンスを練習し、本番で大成功をおさめ、拍手喝さいを浴びる。こうした経験は、「仲間っていいな」「目的に向かってみんなと取り組むことは楽しいものだ」というポジティブな感情を伴う体験となります。音楽発表会、校外学習、林間学校、修学旅行…。学校生活には、こうした心躍る「協働体験」が散りばめられています。



もちろんそれは、学校に限ったことではありません。例えば、サッカーチームの合宿など、共通の目的をもった仲間たちによる「協働活動」の中でも密度の濃い成功体験を積むことができるでしょう。こうした協働活動は、成人した後、多くの職業の中で求められます。社会に出た後「人と一緒に何かを創り上げることは苦手だ…」では済まないわけですね。

3 葛藤

なぜ、人間関係における「葛藤を伴う体験」が必要なのか。それは、葛藤のない人生はないからです。保護者の皆様ならお分かりのことと思います。仕事をしても、子育てをしても、人間関係上の葛藤は、常につきまといます。子どもの頃に葛藤場面を経験せずに成人したらどうなるか。答えは簡単です。ちょっとした葛藤場面に遭遇しただけで、簡単に押しつぶされて（あるいは逃げ出して）しまいます。

近年、子どもたちの人間関係から、葛藤場面が著しく減ってきているように感じます。理由は2つあるように思います。第1に、「遊び」が減っているからです。大人の介入しない、管理されていない子どもたちだけの時間が減っているからです。2つ目は大人による過保護と過干渉です。これはやっかいです。なぜなら、子どもの存在を脅かすできごとから子どもを守りたいという気持ちは我々親に共通した「本能」に基づくものだからです。子どもが人間関係に悩み、涙しているのを黙って見ていることほどつらいことはありません。大人の力で障害を取り除き、葛藤場面から子どもを守りたくなります。そこをじっとこらえて、子ども自身が乗り越えていけるように見守ることは、相当の覚悟とエネルギーが必要です。それでも、将来たくましく人生を切り拓ける大人へと育てたいのであれば、大概のことは（いじめは除く）子どもを支えながら、陰からそっと見守っていききたいものです。（「木」に「立」って「見」と書いて「親」です。）

今日は、「人の間で生き抜くことのできる大人」へと子どもたちを育てていくために大切になるであろう3つのことについて考えてきました。家庭と学校が互いに手を携えて、「人間関係の中で生きる」ことのできる子どもたちへと育てていきたいですね。

◇ 7月の行事予定

日	曜日	行事予定	日	曜日	行事予定
1	火	5年校外学習(茨城空港、笠間焼窯元 大津晃窯) 水泳学習(①3-2 ②1-2 ③3-3)	11	金	4年下水道の出前授業 ステップアップ学習
2	水	委員会活動 水泳学習(①4-2 ②1-3 ③4-3) 朝学読み聞かせ(1年、ひまわり)	15	火	水泳学習(①6-3 ②2-3 ③6-1)
3	木	全校朝会 個人面談個票配付 クイズ大会(中学年の部)	16	水	給食最終日 水泳学習(①6-2 ②ひまわり)
4	金	水泳学習(①5-3 ②2-1 ③4-1)	17	木	3時間授業 11:15 下校
7	月	ネットモラル授業(4～6年)	18	金	終業式 3時間授業 下校 11:15
9	水	朝学読み聞かせ(4年) 水泳学習(①5-1 ②2-2 ③5-2) 代表委員会	19	土	夏季休業(8/31まで)
10	木	クイズ大会 高学年の部	23	水	個人面談(～28日)